

■ 麻生建築&デザイン専門学校 建築サークル

代表者：専任教員 古賀俊光

団体所在地：〒 812-0016 福岡市博多区博多駅南 1-11-13

Tel 092 - 415-2292

E-mail : t-koga@asojuku.ac.jp

URL : http://www.asojuku.ac.jp/act/

会員数 (学生及び関係教員数) 18名(学生17名、教員1名)

設立年月日：平成 26 年 4 月 15 日

テーマ

博多駅周辺の樹木の現状調査とその与える影響

□ 活動目的

福岡市の人口は現在も増え続け 150万人を突破し、今後も増加する見込みである。そして、地球温暖化は福岡市でも確認されており、温度上昇量は日本の平均以上の結果が出ている。そこで注目したのは木、緑である。福岡市内は京都に次いでお寺の数が多く、博多駅前の大博通り周辺にも木造の寺社がみられる。また、山笠や博多曲物等で木材は活用され地域の文化ともいえる。木・緑(街路樹)はヒートアイランド現象の緩和、待機中の浮遊物の吸着、防風、防音などの環境保全や人間の心理生理的な快適な都市空間の形成を担っている。本活動の将来計画としては、福岡から木を通じた地域文化を新たに継承し、発信してゆくことを活動目標とする。

□ 活動概要

博多駅周辺の街路樹その他の植栽の及ぼす影響について建築や都市計画の観点から調査実施、作成ツールにより木への親しみ度の向上、街並み保全や地域活性化への貢献に寄与することを目的とする。

具体的には、博多駅周辺の街路樹その他の植栽の実態調査を行い、まずは、インフォメーションツール(“博多駅周辺の樹木MAP”、“木に触れることの少ない人に親しみを感じてもらえる絵本”)を作成する。そして、そのツールの体験前後にアンケートを行うことで、木に対する親しみ度、関心度などの変化を調査し、さらなるツールの向上を図る。

《主な活動内容》

(1) 学習会の実施

都市部における緑(街路樹)の役割、必要性、また福岡市における緑の現状について(減少する自然の緑と増加する人工的な緑など)の学習会を行った。

(2) 博多駅周辺の緑の実態調査

緑(街路樹、その他の植栽)の実態調査方法は、サークルメンバーを3つのグループに分け、同じ区域をそれぞれの視点で見て回った。その結果を持ち寄りまとめることとした。情報として深める点、不足している点の追加調査を繰り返した。



(3) インフォメーションツールの作成



左「僕たちが街路樹を好きな理由」リーフレット
中「街路樹盗難」街路樹冊子
右「おさんぼはかた」絵本

アンケートで見てもらう博多駅前広場のパース



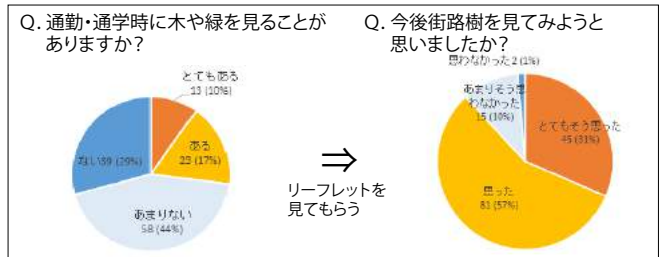
博多駅広場の植栽がないパース



通常の博多駅広場

(4) アンケートの実施

博多駅付近にて、学生や社会人、主婦の方、143人の街路樹の意識アンケートを実施した。アンケートの実施方法は、リーフレットを見る前と見てもらった後で、それぞれ実施することにより、意識の変化を確認することとした。アンケートの結果、はじめはあまり街路樹に興味がないと答える人が多かったが、リーフレットを見た後はとても興味が出たや興味が出たと答える人が明確に増加した。また、リーフレットに対してのレイアウトや内容などに関する意見や指摘を頂いた。



(5) 地域清掃活動

地元住民の勉強会もあわせて、地域清掃活動を博多駅南地区で実施した。

参加者から「福岡はきれいな街でゴミはあまりないイメージだったが、緑について学習し、散策すると、今までは気になっていないだけで注目すると意外と多くのごみが捨てられていた」のような意見をいただき、今後も続けていくことの必要性を実感することが出来た。



□ 今後の課題

アンケートを受けてのインフォメーションツールのブラッシュアップ、また緑の都市計画にもたらす影響(緑の効果的な利用)について調査を進めていく。具体的には人が座りやすいベンチと植栽の関係や地域清掃活動でゴミが見られた街路樹のゴミをどのようにしたら解決できるかなどを考えている。それと同時に地域清掃活動や学習会を合わせて実施していきたい。